

和田山中和田遺跡

集会所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

高崎市教育委員会

和田山中和田遺跡

集会所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

高崎市教育委員会

序

高崎市は、古来より関東と信越をつなぐ交通の要衝に位置する人口約36万9千人の中核市です。

平成29年10月末には上野三碑がユネスコ「世界の記憶」に登録され、今年度で5周年を迎えてます。また、歴史と景観が調和した国指定史跡保渡田古墳群や国重要文化財および史跡である旧新町紡績所など、古代から近代までの多くの遺跡が存在する文化財の宝庫となっています。

本書で報告する和田山中和田遺跡は、集会所建設工事に伴って発見された埋蔵文化財であり、令和4年1月に発掘調査を実施したものです。このたびの調査では、平安時代の堅穴建物跡を検出し、本市の古代のくらしの一端を知る成果をあげることができました。本報告書は、この成果について文化財調査報告書第489集としてまとめたものです。今後の研究の参考資料としてご一読いただければ幸いです。

結びに、本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたりご協力いただきました関係機関ならびに関係者の皆様に心から感謝申し上げ、序といたします。

令和5年3月

高崎市教育委員会
教育長 飯野眞幸

例 言

1. 本書は、「和田山地区集会所」新築工事に伴う埋蔵文化財の記録保存の発掘調査報告書である。
2. 「和田山中和田跡」は、群馬県高崎市箕郷町和田山字中和田106・107番地に所在する。
3. 本発掘調査および整理事業は、箕郷支所地域振興課の委託を受けた高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課が行なった。

【調査組織】

文化財保護課長 角田 真也

課長補佐兼埋蔵文化財担当係長 清水 豊

埋蔵文化財担当係長 滝沢 国

調査担当 山本 ジェームズ（主任学芸員）、飯塚 誠（嘱託職員）

事務担当 関口 芳治、佐藤 晃子、岡田 清香（令和3年度）

佐藤 晃子、深澤 恵、木村 夏葵（令和4年度）

4. 発掘調査は令和4年1月6日(木)～同年1月27日(木)、整理作業は令和4年2月1日(火)～令和5年3月31日(金)にそれぞれ実施した。
5. 本書の執筆・編集は、山本・飯塚が行なった。
6. 遺構・遺物出土状況写真撮影は調査担当者が行なった。
7. 図版等の作成、遺物図版掲載用写真撮影は担当者の指示の下、補助員が実施した。
8. 遺跡の基準点測量は、(株)測研に委託した。
9. 発掘調査において、表土掘削および埋め戻し作業は(株)井ノ上が実施した。
10. 発掘調査の記録図面・写真、出土遺物は高崎市教育委員会で保管している。
11. 発掘調査にあたり、地元関係者および関係機関・所管部署にご協力をいただいた。

凡 例

1. 本書に使用した地図は、国土地理院発行の地形図および高崎市都市計画図を基に作成した。
2. 本書中の座標値は、平面直角座標第IX系国家座標（世界測地系）を原則としており、方位は同座標北(GN)である。
3. 土層・遺物の色調および土壤の注記は、農林水産技術会議事務局および(財)日本色彩研究所監修『新版標準土色帖(1998年版)』を使用した。
4. 遺構には次の略称を使用した。

SI : 壓穴建物跡 SD : 溝跡 SK : 土坑 SN : 畠跡

5. テフラ等火山噴出物には次の略号を使用した。

浅間A軽石 : As-A 1783(天明3)年

棲名FP : Hr-FP 6世紀中頃

浅間B軽石 : As-B 1108(嘉承3・天仁元)年

棲名FA : Hr-FA 6世紀初頭

浅間柏川テフラ : As-kk 1128(大治3)年

浅間C軽石 : As-C 3世紀末～4世紀初頭

浅間黄色板鼻軽石 : As-YP 約17,000年前

目 次

序 例言・凡例 目次・図版目次・表目次・写真図版目次

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
第3節 日誌抄	1

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2

第3章 検出した遺構と遺物

第1節 調査の概要	5
第2節 基本土層	5
第3節 検出した遺構と遺物	5

第4章 総括

写真図版

抄録・奥付

図 版 目 次

第1図 和田山中和田遺跡位置図	1
第2図 和田山中和田遺跡周辺遺跡位置図	3
第3図 和田山中和田遺跡 全体図	4
第4図 竪穴建物跡 平面図・断面図	6
第5図 竪穴建物跡 竪平面図・断面図	7
第6図 土坑 平面図・断面図	8
第7図 溝 平面図・断面図（1）	9
第8図 溝 平面図・断面図（2）	10
第9図 遺物実測図（1）	11
第10図 遺物実測図（2）	12

表 目 次

第1表 遺物観察表	12
-----------	----

写真図版目次

遺構	PL. 1 ~ 3
遺物	PL. 4

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

令和2年7月8日、高崎市箕郷支所地域振興課（以下、地域振興課と略）から、高崎市箕郷町和田山において地区的集会所建設を計画していると高崎市教育委員会文化財保護課（以下、文化財保護課と略）に連絡があった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である和田山古墳群内に所在するため、工事前に文化財保護法94条第1項の規定による通知が必要であることを伝えた。

令和2年8月30日、地域振興課より文化財保護課に埋蔵文化財確認調査申込書が提出され、同年9月8日に掘削工事を伴う建物部分と切土部分について確認調査を実施した。その結果、建物部分において古墳時代の遺構、切土部分において縄文時代の遺構を確認した。この結果をもとに地域振興課と文化財保護課で協議したが、建物部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。

令和3年10月11日、地域振興課から文化財保護法94条第1項の通知があり、同年10月12日、工事着手前に記録保存のための発掘調査をするよう勧告を行った。これを受け令和4年1月6日より建物部分の発掘調査を開始した。遺跡名については「和田山中和田遺跡」とした。

第2節 調査の方法

令和4年1月6日、確認調査の結果をふまえ、表土を慎重に重機掘削し遺構の有無を確認するこ

とし調査を開始した。その結果、溝跡2条・土坑4基を検出すると共に、調査区東半部でIV層（As-Bの一次堆積）が確認された。IV層を人力で慎重に除去すると竪穴建物跡1軒と畠跡1面が現れた。確認調査時に古墳と予想した円礎は、竪穴建物跡の窓用材であり、古墳は検出されなかった。

第3節 日誌抄

【調査日誌】

- 1月6日 重機による表土掘削開始、遺構確認面（As-C混じり黒色土）。切土予定地トレンチ西端で縄文期の土坑確認、土器片・黒曜石フレイク出土。
- 1月7日 重機による表土掘削、遺構確認。切土予定地は工事時立会いとし、埋め戻し。
- 1月12日 試掘トレンチ精査、溝・土坑精査。SD-1埋土中より縄文耳飾り出土。
- 1月14日 土坑精査・記録作成、As-B軽石下畠精査。
- 1月17日 SD・As-B下畠記録作成、確認調査時の石はSIの窓用材と確認。
- 1月18日 基準杭座標値測量。SI精査。
- 1月20日 SI記録作成、床面断面開始。
- 1月25日 SI掘り方記録作成。
- 1月26日 調査区下層遺構確認調査、埋め戻し作業。
- 1月27日 調査器具等撤収、現場作業終了。



第1図 和田山中和田遺跡位置図

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

和田山中和田遺跡は、群馬県のほぼ中央部、高崎市箕郷地域に所在する。箕郷地域は、本県西部中央を占める榛名山の東南麓に位置する。榛名山南麓は烏川が南東流しており玉村町・埼玉県本庄市で利根川へと合流している。箕郷地域は、榛名山鷹巣山付近から南流する榛名白川と箕郷町東明屋から南流する井野川によって地形が大きく3分される。

井野川右岸には、約1万4千年前の山体崩壊によって形成された相馬ヶ原扇状地と呼ばれる火山山麓扇状地が広がっている。箕郷地域西部を流れる榛名白川の左岸は井野川までが6世紀の榛名山ニッ岳の火砕流による白川扇状地、右岸は榛名山麓と約5万年前の室田火砕流堆積物上に形成された台地によって占められている。遺跡地周辺は、約4万年前とされる榛名山の噴火時に形成された古期扇状地・十文字面と呼ばれる起伏に富んだ丘陵が広がり、丘陵は樹枝状に開析され細長い谷地が延びている。

遺跡地は北東方向に延びる幅100m前後の尾根の北東先端付近に位置しており、谷地との比高は約10mである。現地表面の標高は164mを測る。周辺では、丘陵地帯の傾斜地を利用した梅の栽培や谷地部での水田耕作などが行なわれている。南側の隣接地に「熊野神社」が祀られており、一段下の東隣に「和田山集会所」が、北西の竹林の中には荒廃した「稻荷神社」がある。遺跡地は桑園として利用されていた時期も有ったようだが、東側では現在も稻作が行なわれている。

第2節 歴史的環境

戦国時代の西上州を代表する城郭の箕輪城は、最後の城主・井伊直政が慶長3年(1598)に居城を高峰に移したことによって拠点としての地位を失つたが、平成18年の合併により高崎市を代表する史跡となっている。

箕郷地域では、『上毛古墳綜覧』「箕郷町4号墳」、「下芝谷ヶ古墳」、国史跡箕輪城跡の整備に関する発掘調査などが行なわれている。

遺跡地周辺では北陸新幹線建設に伴う「和田山天神前遺跡」、主要地方道前橋安中富岡線整備に

伴う「下芝内出畑遺跡」「和田山天神前2遺跡」、宅地造成に伴う「和田山古墳群」、高压送電線鉄塔の建設に伴う「下芝五反田遺跡」・「下芝萬行遺跡」などの発掘調査が行なわれている。

【旧石器時代】

「和田山天神前遺跡」の始良一丹沢火山灰(AT)層下の暗色帶から黒曜石20点が出土している。

【縄文時代】

押型文土器が発見された「はるな郷早期縄文遺跡」、中期加曾利E期の堅穴建物を検出した「城山遺跡」、長方形石匂い炉を調査した「中善地遺跡」の他に、「和田山天神前遺跡」では前期黒浜式期～後期堀之内式期の堅穴建物跡・土坑・埋甕等が調査されている。

【弥生時代】

浦川・車川流域の善地地区に中期の遺跡が点在し、谷あいの低地を利用した小規模な水稻耕作が開始されたことが窺える。なお、本遺跡地の約1km程北に築かれた「鳴沢湖」がある富岡地区では、低地との比高が20mほどある丘陵上にも中期の遺物が散布している。後期に入ると、白川地区的丘陵先端部で多くの遺物散布が認められる。

【古墳時代】

昭和10年に群馬県下第一斎古墳調査が行なわれ『上毛古墳綜覧』が刊行されたが、旧箕郷町分では「車郷村139基」「箕輪町5基」「相馬村・柏木沢7基」「上郊村・生原12基」の計163基が登載されている。

明治32年に発掘された「和田山桜塚古墳」、昭和4年に調査された「上芝古墳」の他、「和田山天神前遺跡」では26基の後期群集墳が調査されている。

【古代】

古代、榛名山の東・南麓地域一帯は上野国群馬郡に編入されており、上野国府や国分寺が置かれ、東山道駿路が通過する上野国の中心地であった。箕郷地域ほぼ全域に土師器・須恵器が散布し

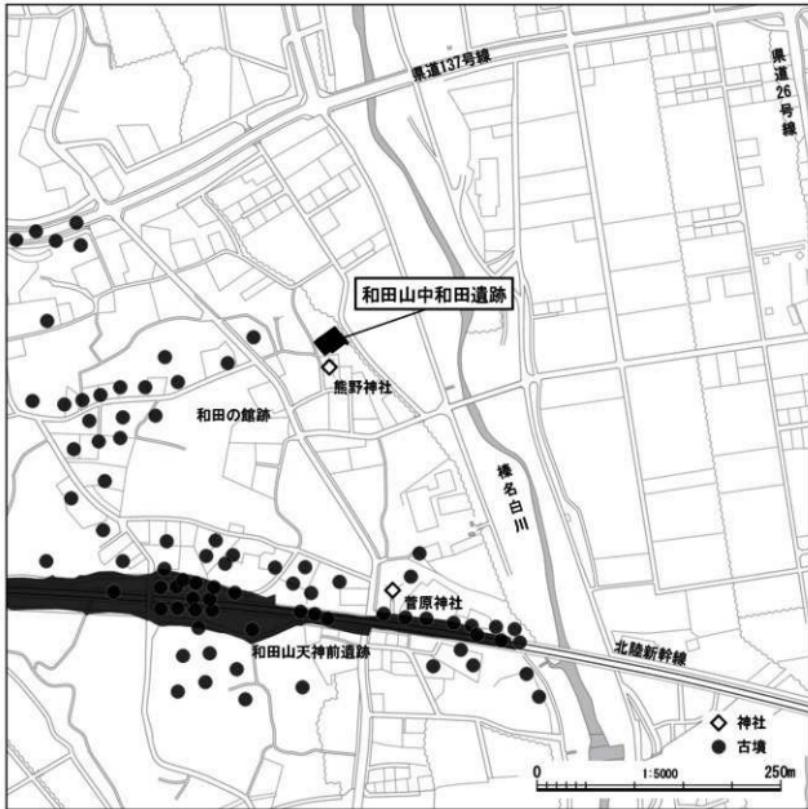
ており集落存在が伺えるが、調査地が律令制下13郷の内の何郷に属するかの資料は得られていない。

箕郷町善地周辺は「延喜式」の上野九御牧の「沼尾牧」の所在候補地の一つとされている。As-B下の水田遺構も圃場整備事業に伴う発掘調査により資料が増加してきている。「和田山天神前遺跡」では、As-B下の畠・馬埋葬土坑1基・畠耕土下の堅穴建物跡2軒が検出されている。

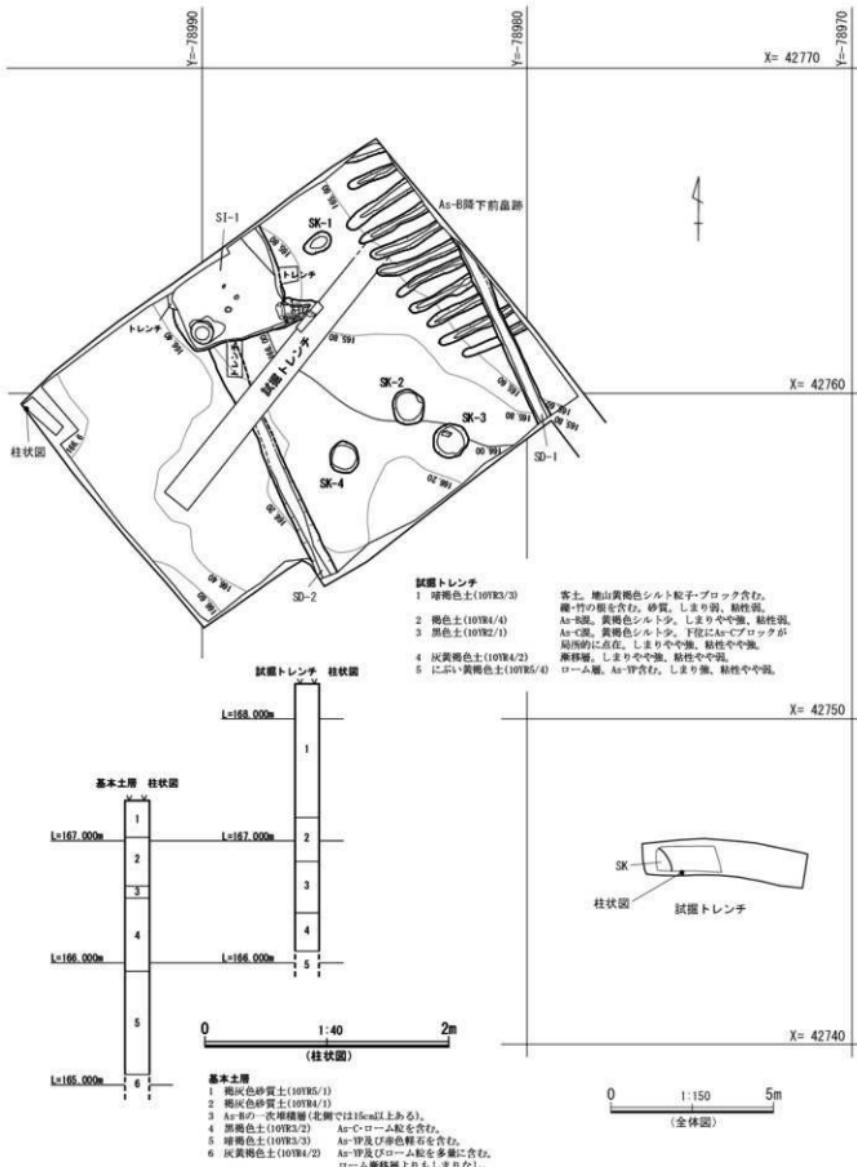
【中世・近世】

建保元年（1213）鎌倉において和田義盛の一族・郎党が北条義時の軍と戦を交え落人として蟄居生活を送ったとされる伝承を残す「和田の館跡」が

調査地の約100mほど南西にある。北朝年号の刻まれた墓石や南朝年号の書かれた古文書も伝わっている。また、地名を手掛かりにすると箕郷地域関係の莊園に「青木の莊」があり、「和田山村」も属していた。箕郷地域は、中世・長野氏の拠点であり、白川対岸の低丘陵上に築かれた箕輪城を中心にして栄えていた。永禄年間に長野業盛が破れ武田信玄の支配下に置かれた後、滝川氏・北条市・井伊氏と上州箕輪城の城主が変わり、慶長3年高崎城移転に伴い廃止された。「和田山天神前遺跡」では、修驗道場・極楽院の建物跡とその前身の館等が検出されており、「信貴形水瓶」が出土している。



第2図 和田山中和田遺跡周辺遺跡位置図



第3図 和田山中和田遺跡 全体図

第3章 検出した遺構と遺物

第1節 調査の概要

今回の調査では、平安時代堅穴建物跡1軒、As-B降下前の畠跡1面、土坑4基および溝2条を検出した。以下、詳述する。

第2節 基本土層

調査区西隅で基本土層の観察を行ったところ、現地表下70cmまで褐色灰色砂質土があり、以下にAs-Bの一次堆積層が確認できた。以下にはAs-Cを含む黒褐色土、As-VP等を含む暗褐色土層が観察される。

第3節 検出した遺構と遺物

(1) 坚穴建物跡 (SI-1)

北壁は調査区域外にあるが、南東隅に竈を持ち、北西方向に長く西壁がやや開く不整隅丸方形（西壁200cm・南壁300cm・東壁は竈部分を含めると325cm検出）を呈する。南東傾斜面に築かれ、廃棄後の崩落や耕作の影響もあるが、残存壁高（南西隅5.5cm・北西隅79.0cm・南東隅33.5cm・北東隅38.0cm）に大きな開きがある。周堤帯等は検出されなかつた。床面はほぼ平坦で、北西および北東の隅部以外は硬く踏み固められていたが南東方向に5cmほど傾斜していた。壁はやや開きながら直に立ち上がっていた。壁周溝・ピットは検出されなかつた。

竈 南東隅に築かれており、焚口がやや東壁よりも出ているが燃焼部は壁外にある。25~30cmの河原石を35cmほどの間隔で立てて焚口の袖とし、焚口の手前に崩れ落ちていた50cmほどの石を架けていたと思われる。燃焼室内も河原石を立てており、奥行き50cmほどの火床を設けていた。火床面の奥には、27cmの支脚石が7cmほど埋め込まれており、そこから緩やかに10cmほど立ち上がっていた。立ち上がった先の左壁にも河原石が据えられていたので、昇炎方式の構造で築かれていたと思われるが、確認調査時のトレレンチで先端部を壊してしまったため煙道部の状況等は不明。南壁の延長上を幅85cm、長さ110cmの馬蹄形状に掘り、河原石と粘性のある黒色土を充填土として構築したと思われるが、構築に当たっての空焚きの痕跡等は確認できなかつた。

貯藏穴 南西隅にあり、南北方向がやや長い円形（径70~75cm、底径40~45cm、深さ57cm）で、上面の東側部分に3cmほどの高まりがある。底面は中央部が2cmほど高くなっている。壁はやや開きながら立ちあがっている。埋土中から弥生土器壺の肩部細片が出土。

掘り方 底面下5cmほどまでローム漸移層を掘り下げており、底面には浅い小ピットが多数ある。竈の50cmほど手前には、南北方向がやや長い不整隅円形（径70~90cm・深さ8cm）の土坑があり、黄褐色粘土質土が残っていた。

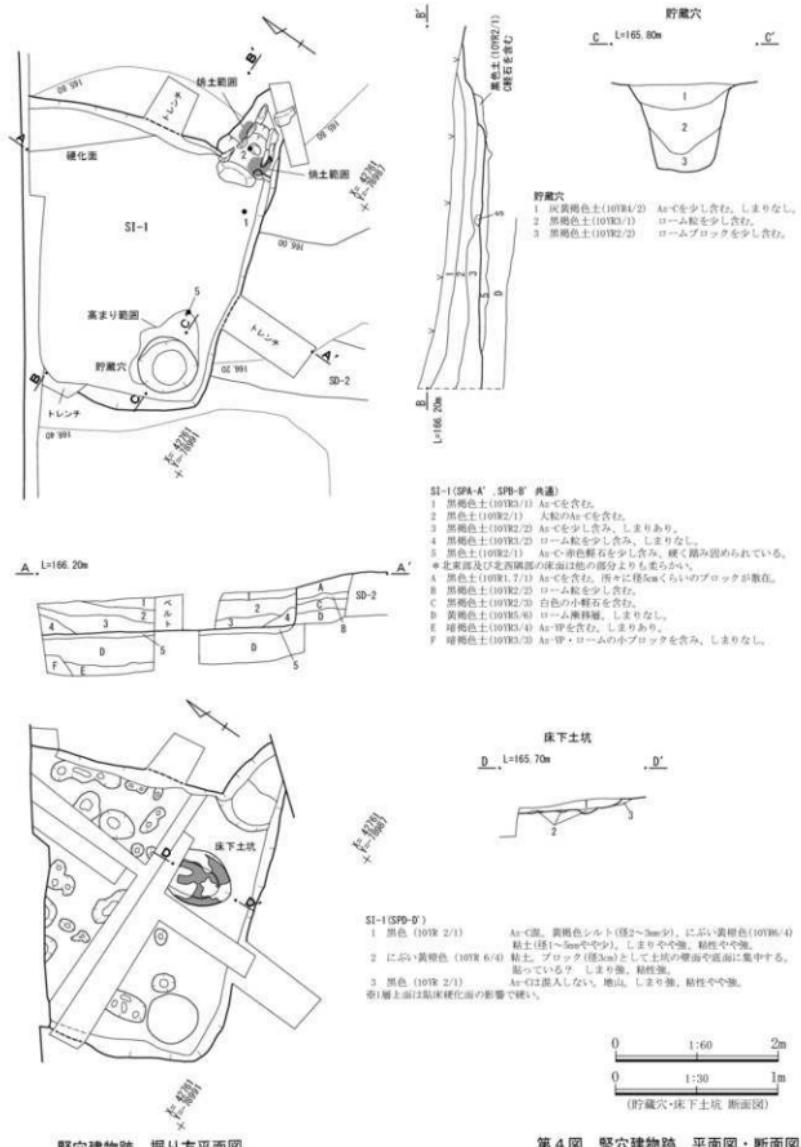
出土遺物 竈を壊して廃棄しており、竈の中からは円筒埴輪片と土師器片が、埋土中からは縄文土器の細片・円筒埴輪片が出土したのみである。細片ながら釜の胴部の様子からは、堅穴建物跡の年代は11世紀代と考えられる。

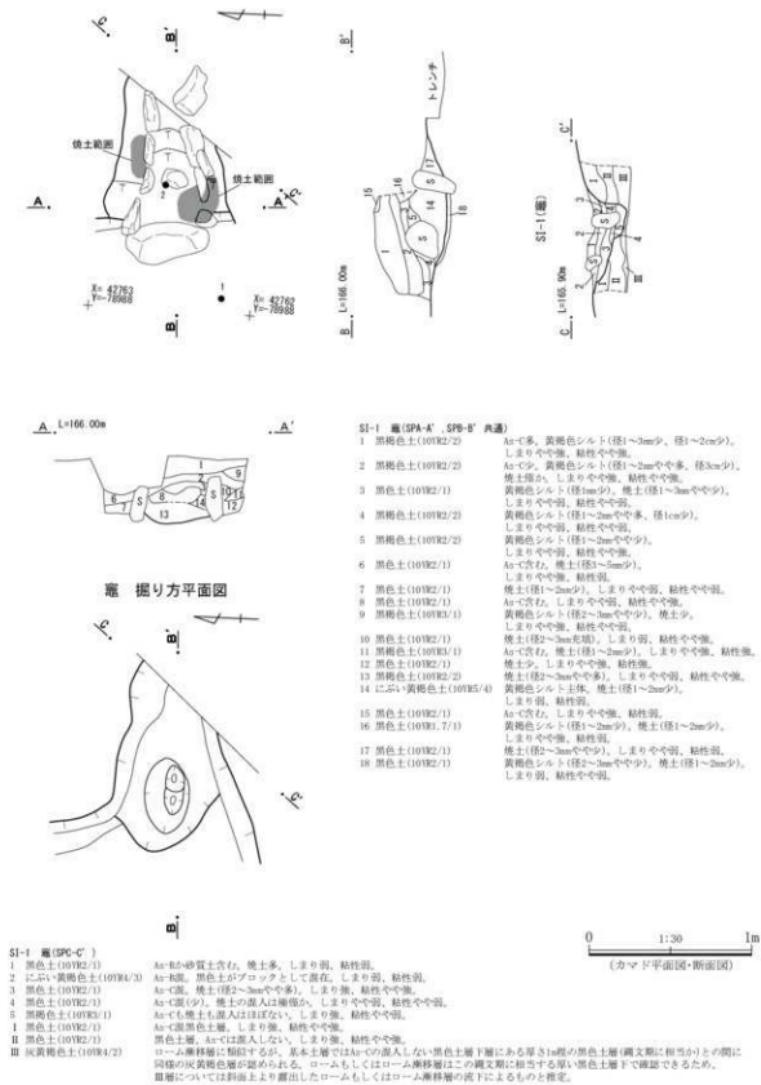
(2) 畠 跡

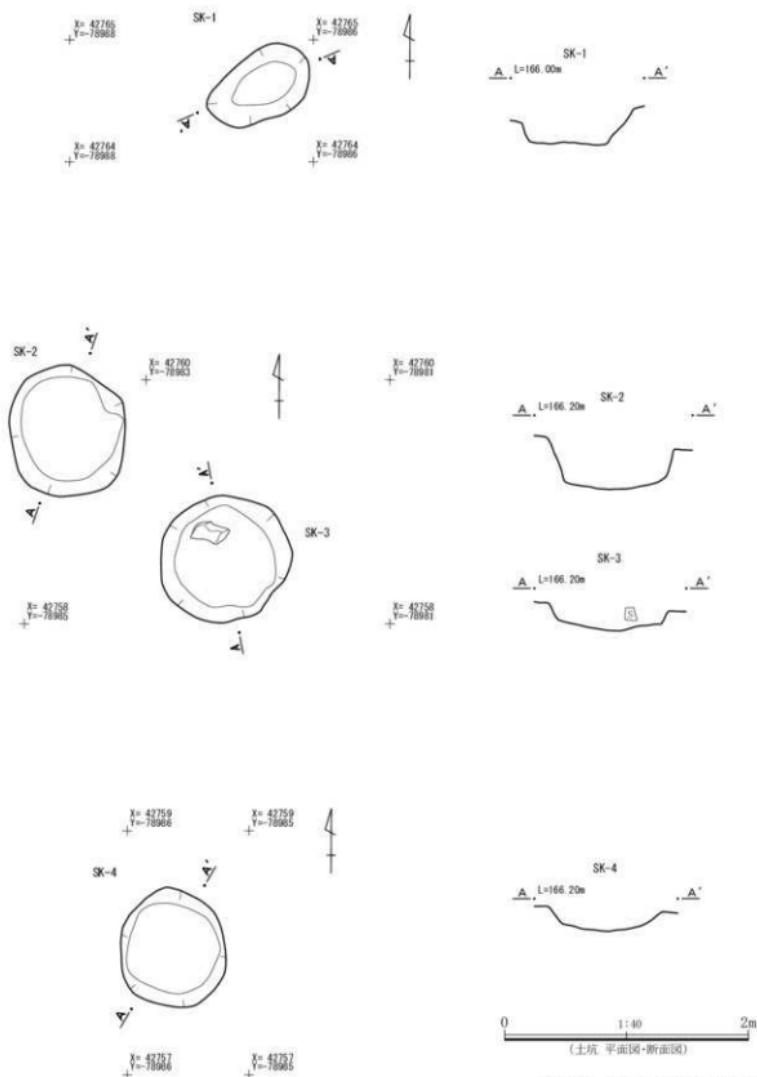
調査区北東部の緩斜面で、As-Bの一次堆積層下面から11条の「さく」（畠間溝）を検出した。畠の幅は30~40cmほどで、「さく」の幅も50~40cm前後である。押し潰されているため畠の高さは5cm前後しかない。「さく」の底面も水平ではなく、東側が10~15cmほど低くなっている。北側の2条以外は等高線と103~107°で交わっているが、北端の2条は118°で、検出された長さもやや短い。別の区画の可能性もあるが、3番目の「さく」との間隔がさほど離れていないので、同一区画の畠と考えておきたい。作土はAs-Cを含む黒褐色土であるが、栽培作物の痕跡は検出できなかつた。

(3) 土 坑

調査区の北側で1基(SK-1)、南側で3基(SK-2~4)が近接して検出された。SK-1は径60~90cmの不整隅円形で、捕鉢状に掘り込まれており、深さ23.6cm。SK-2は径95~110cm・深さ45.4cm、SK-3は径105~110cm・深さ13.9cm、SK-4は径90~100cm・深さ23.8cm。3基とも円筒状に掘り込まれており、底面はほぼ平坦であるが硬くはない。埋土は4基ともAs-Bを多く含む灰黄褐色砂質土で、縮まりがなく表土層に近い。SK-1は不明であるが、







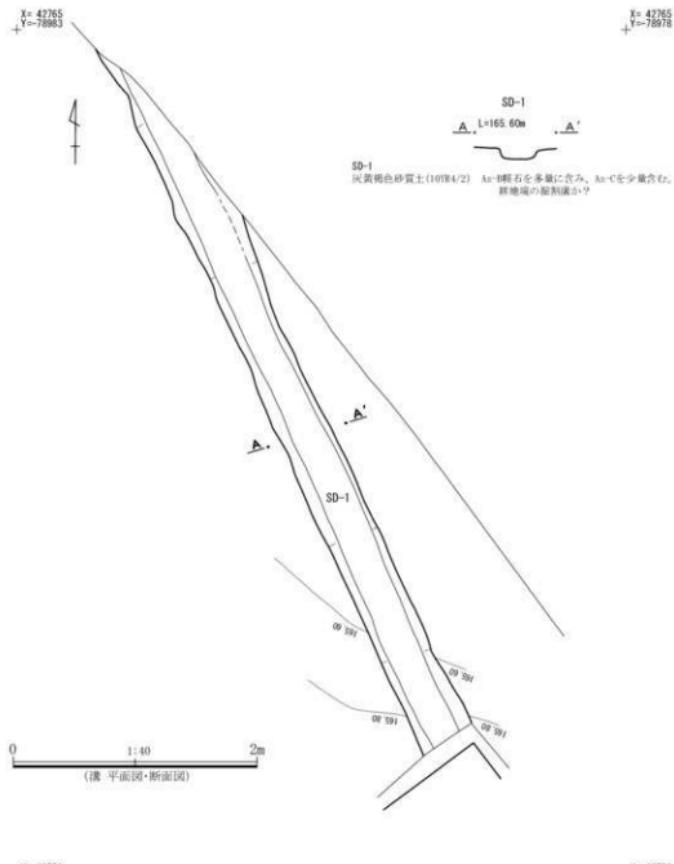
第6図 土坑 平面図・断面図

他の3基は近現代の耕作に伴う貯蔵用の土坑と考えられる。SK-1からは磁器片1点・SK-2からは土師器片2点が出土し、SK-3の底には30cm大の山石があった。

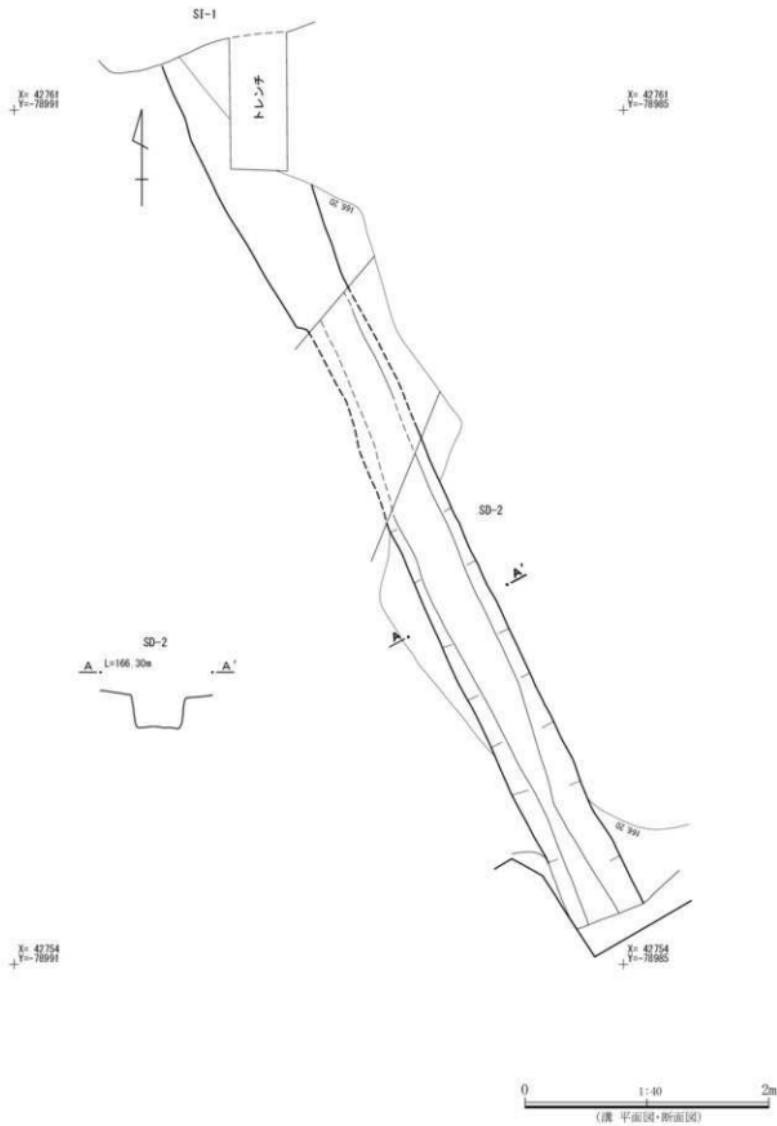
(4) 溝 跡

調査区の中央および東側で2条の溝を検出した。SD-1(幅32cm・深さ9cm)、SD-2(幅45cm・深さ26cm)で、南東から北西方向に掘られており、北

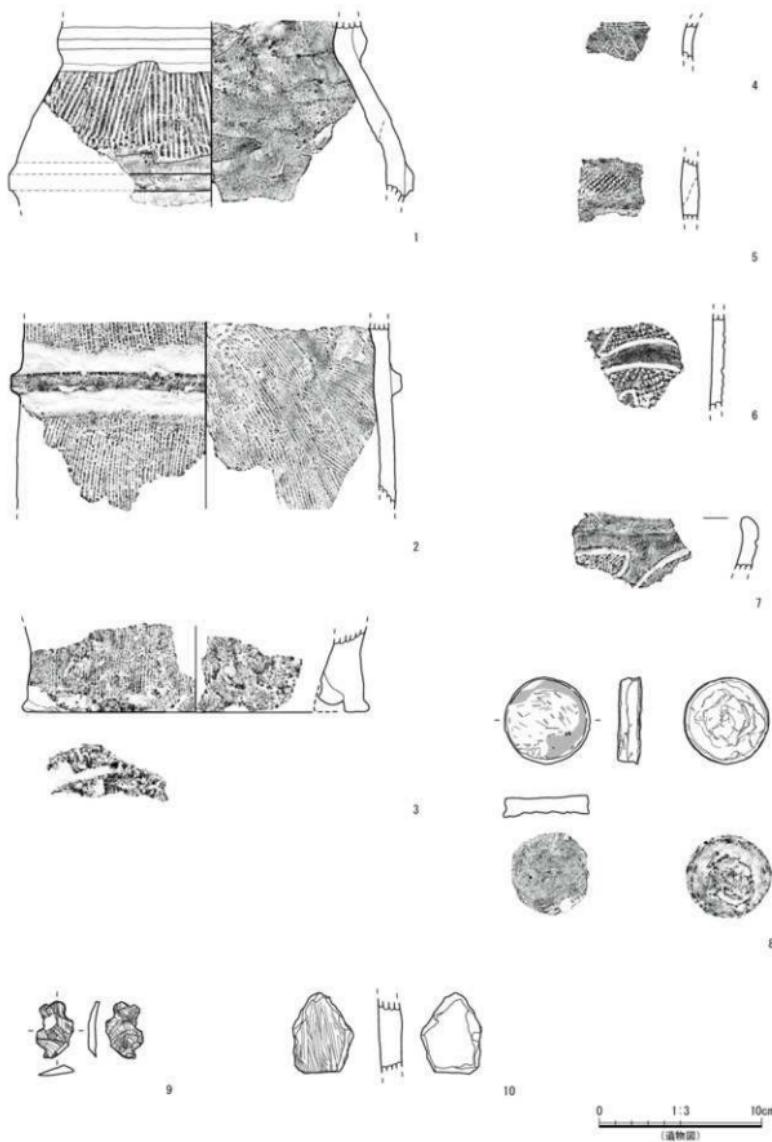
側のほうが20cmほど低い。両者の間隔は7.5mほど離れているが、走向はほぼ一致している。埋土は灰黄褐色砂質土でAs-Bを多く含み、締まりがなく表土層に近い。埋土中から磁器片・土師器細片が出土しており、近現代の耕作に伴う区画溝と考えられる。なおSD-1の埋土中より縄文時代の土製栓状耳飾りが出土した。径5.2cm・高さ1.2cmの円柱状で、重さ40g、側面はやや窪んでおり、表面には細かな凹凸があるが、造形とは思われない。



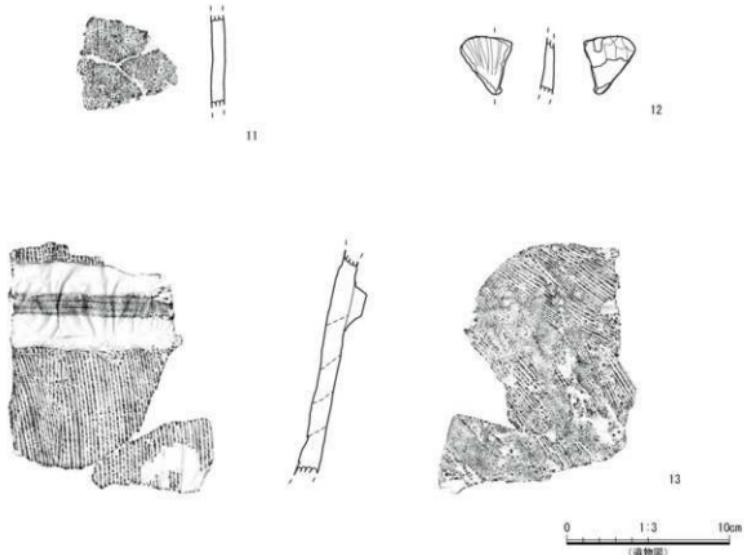
第7図 溝 平面図・断面図 (1)



第8図 溝 平面図・断面図（2）



第9図 遺物実測図（1）



第10図 遺物実測図（2）

第1表 遺物観察表

揭露番号	出土位置	器種	法量(cm)			調整		色調	胎土	焼成	残存	備考
			口径	器高	底径	外面	内面					
第9図1 PLA	SI-1 東北	朝顔形埴輪	頭部径 17cm	—	—	7本/2cmタテハケ 凸帯貼付後ユビナデ	ユビナデ	褐色	白色微砂	良好	頭部	
第9図2 PLA	SI-1 右袖	円筒埴輪	凸部径 24cm	—	—	11本/2cmタテハケ 凸帯貼付後ユビナデ	内面11本/2cm斜ハケ	褐色	白色微砂	良好	頭部	
第9図3 PLA	SI-1 電	円筒埴輪	基部径 13cm	—	—	11本/2cm	ユビナデ 左回りマキアゲ	にぶい 褐色	白色微砂	良好	基部	
第9図4 PLA	SI-1 襟	甕生土器 裏	—	—	—	櫛描波状文 3連直巒状文	ヘラナデ	灰褐色	細密	良好	後期 破片	
第9図5 PLA	SI-1 襟	繩文土器 深鉢	—	—	—	地文LR、磨り消し幅 3mmの沈線区画文	ナデ	暗赤褐色	砂粒	良好	胸部 破片	
第9図6 PLA	SI-1 南西	縄文土器 深鉢	—	—	—	地文LR、磨り消し幅 3mmの沈線区画文	ナデ	明赤褐色	細砂	良好	胸部 破片	
第9図7 PLA	SI-1 南西	縄文土器 深鉢	—	—	—	模やかに波打つ 地文LR、幅3mmの沈線 区画文、磨き	横方向磨き	暗赤褐色	砂粒	良好	口縁 破片	
第9図8 PLA	SD-1	縄文土製品 耳栓	直径 52mm	厚 12mm	直径 50mm	表が2mmほど埋み細いヘラナデ底あり 側面僅かに凹れ	にぶい 褐色	細砂粒	硬質			
第9図9 PLA	南トレ SK	黒曜石	—	—	—	大きな3つの剥離	小さな二次剥離3箇所	透明感のある薄い 黒色	—	—	剥片	
第9図10 PLA	試掘トレ	縄文土器	—	—	—	丁寧なヘラ磨き	ナデ	内側褐色灰色	明赤褐色	砂粒	良好	胸部 破片
第10図11 PLA	試掘トレ	縄文土器	—	—	—	タテ方向ヘカ目様の 文様	ヘラナデ 内側褐色灰色	明赤褐色	砂粒	良好	胸部 破片	
第10図12 PLA	試掘トレ	土師器 壺か	—	—	—	部分的にヘラナデ	幅4mmほどの丁寧な ヘラ磨き	赤褐色	織密	良好	破片	
第10図13 PLA	試掘トレ	円筒埴輪	凸部径 22cm	—	—	11本/2cmタテハケ 凸帯貼付後ユビナデ	11本/2cm斜ハケ	褐色	白色微砂	良好	頭部	

第4章 総括

本遺跡では、As-Bに埋もれた畠跡とそれに近い時期の竪穴建物跡が検出された。

☆富岡市の大牛中原遺跡では、牧の区画溝の可能性が考えられる古代の大溝の北側平坦面で6件のAs-Bの堆積が認められる竪穴住居跡が検出され、小規模な集落が調査されているが、本遺跡のように、集落から離れ、単独で所在する竪穴建物跡（所謂「離れ国分」）の存在も古くから注目されている。中山吉秀は、奈良・平安時代の農民営住の位置形態として分析を行っている。その中で、①班田農民の季節的な作業小屋・②特殊工人の作業小屋・③堂守の住居・④山間社会の生活を余儀なくされた人の住居等の性格付けを推し量っている。そこで、県内における本遺跡に類似する調査事例を参考に今回の調査意義を考えてみたい。

☆高崎市三ツ寺町の堤上遺跡は、東側の谷に面した平坦地に広がる古墳時代後期（63軒）～奈良・平安時代（107軒）の集落遺跡であるが、11世紀前半のH-115号住居が廃棄された後の窪地で南北方向の8条の歎が検出された。プラント・オバール分析では、イネ・キビ属が栽培の栽培が行なわれていた可能性が高いことが指摘されている。なお、遺構確認面までが30cmしか無いことから、後世の削平の影響で失われてしまった畠が周囲に広がっていた可能性が指摘されている。

☆高崎市箕郷町の和田山天神前遺跡・16号住居跡は南東緩斜面に占地しており、北東壁に竈、南西壁周溝が廻る。床面は南に緩傾斜、残存壁高は50cm。等高線に交わる方向で歎立てされたAs-B下畠耕土下で検出されたが、周堤帯の確認はできなかった。畠ではイネやキビ族の栽培の可能性が認められた。

☆高崎市の下里見宮谷戸遺跡では、As-B下の道路跡・畠跡が調査され、イネ属・オムギ族の栽培が考えられる資料が得られた。また、As-Bの降下時期にさほど隔たらない竪穴建物跡の竈・貯蔵穴・周堤帯などの資料も得られた。さらに、2次調査でも10世紀代の住居とAs-B下の畠跡が検出された。

☆富岡市の富岡清水遺跡では、10世紀代の集落が営まれた微高地よりも1.8mほど下がった緩斜面に直行する歎の畠跡2区画が検出された。集落か

らは10mほどしか離れていないためか、下部遺構が検出されていないため、開発時期を窺える資料は得られていない。栽培作物に関する直接的な科学分析はなされていない。

☆富岡市の上高田稻葉上遺跡では、8世紀段階に集落が営まれていたが、9・10世紀には集落が営まれた地点から130mほど西側の丘陵の窪地部分で18条の歎が検出され、11世紀前半の19号住居が30cmほど埋もれた時点で畠が拓かれ、As-Bの降下段階では耕作が放棄されていたとの調査結果が得られた。なお、栽培作物についてはプラント・オバール分析の結果、イネとキビ属（アワ・ヒエ・キビ）が栽培されていた可能性や陸稻の栽培や二毛作の可能性等に関する資料が得られている。

☆東吾妻町の万木沢B遺跡では、古墳時代後期から、8世紀中頃～9世紀初頭・9世紀後半～10世紀の間断期を挟むが、11世紀代の竪穴建物跡13軒とAs-kkに覆われた畠跡2面が調査されている。畠との重複は無いが、4軒の建物跡の覆土中にAs-BとAs-kkの2層のテフラの一次堆積が確認されており、畠の開発時期を知る好資料が得られた。竪穴建物の周堤帯と住居内の窪地を除く緩斜面に直交する歎間溝23条が検出されているが栽培作物に関する科学分析はなされていない。

下流部の「四戸遺跡」でも10世紀後半の竪穴建物跡を最後に同時期の畠へと変わった様子が確認された。また、「新井遺跡」では居住域の西側からAs-B下の畠が検出されており、歎には径8mmほどの作物由来と思われる穴が残っていた。さらに、「厚田中村遺跡」では、As-B下の水田が検出されている。

☆東吾妻町の唐堀C遺跡では、古墳時代後期～10世紀初頭の竪穴建物跡が廃棄された後に畠の開発が始まった。居住域でなかった4区中央部でAs-kkで覆われていた32条の歎間溝が検出され、次第に両隣にも拡大していく状況が認められた。

☆安中市松井田町の五料稻荷谷戸遺跡では、奈良・平安時代集落から800mほど西側の南緩斜面で等高線に沿う歎の畠跡が検出された。南側には上幅3～7m・下幅0.5～1.2mのU字状の溝状遺構があり、歩行によると考えられる硬化面も確認されているが東側100mほどの範囲ではAs-A降下以前の

畠跡が広がるが他の遺構は確認されていない。科学分析の記述は無いが、山間部における「官道」を考える資料としている(松井田町遺跡調査会 1997)。

近い時期の堅穴建物跡に関しては、畠跡ではないが、松井田町の人見正寺田遺跡・4号住居では床面から30cmほど上にAs-Bが堆積。宝相華文の5弁軒丸瓦が出土。9mほど西に掘立柱建物跡がある。さらに5mほど離れた低地にAs-B下水田がある。

☆妙義町の八木連理沢遺跡A区では、As-Bの堆積が見られる6・12・15号住居が8~13mの間隔を以て営まれていた。また、南東に1km以上離れた八木連荒畠遺跡では、南東斜面に単独で立地しており、墨書き土器が出土している。谷を挟んだ東側B区には同時期の住居は営まれていない。

☆富岡市の中沢平賀界戸遺跡のI-3号住居は舌状台地の南西斜面に単独で立地しており、西側のH区は低地部になる。脚付羽釜が出土。他の住

居から置き竈・縫打具が出土。

上記の事例等から、春里桃子は、前橋市の『五代伊勢宮VII・VIII遺跡』でAs-Bが埋没土に含まれる堅穴住居跡(堅穴状遺構)の分析を加えており、15世紀までの変遷を辿っている。

また、藤岡市の工業団地造成に伴う「三本木遺跡」の中で石丸敦史は、扇状地地形の先端部に展開する6世紀~11世紀までの住居分布の分析を通して、住居構造・集落分布・土地開発等広く検討して能登健らの「山棲集落」にも触れている。

以上、類似資料を見てみたが、堅穴建物跡の周堤帯や貯蔵穴の「蓋」、竈位置や床面の状態に関しては共通するものがあり、畠の歴史的変遷を以て営まれていた。しかし、『小右記』寛弘2年12月21日条に見られるように、「坂東已亡幣国」と認識されていた中での歴史的解明には、さらなる良好な資料の増加を俟つこととしたい。

参考文献

- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『中沢平賀界戸遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『和田山天神前遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『富岡清水遺跡・富岡城跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2018 『厚田中村遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2020 『四戸遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2021 『唐堀C遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2022 『新井遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2022 『万木沢B遺跡』
- 群馬町教育委員会 1995 『堤上遺跡』
- 高崎市教育委員会 2013 下里見宮谷戸遺跡第1次
- 高崎市教育委員会 2014 下里見宮谷戸遺跡2
- 富岡市教育委員会 2014 『上高田筑前上遺跡II 上高田稻葉上遺跡』
- 富岡市教育委員会 2019 『大牛中原遺跡』
- 藤岡市教育委員会 2013 『E23d 三本木中道E遺跡; E23e 三本木中道東F遺跡; E23g 三本木中道東II 遺跡; E24a 三本木大谷A遺跡; E24b 三本木水口A遺跡; E24d 三本木中道東D遺跡』
- 前橋市教育委員会 2018 『五代伊勢宮VII・VIII遺跡』
- 松井田町遺跡調査会 1997 『五料平・野ヶ久保・稲荷谷戸遺跡』
- 松井田町教育委員会 2001 『人見中の條遺跡 人見大王寺・正寺田遺跡』
- 妙義町遺跡調査会 1990 『古立東山遺跡・古立中村遺跡・八木連理沢遺跡・八木連荒畠遺跡』
- 中山吉秀 1976 「離れ国分考」『古代』第61号 早稲田大学考古学会
- 能登健ほか 1985 「山棲集落の出現とその背景」『信濃』37巻4号 信濃史学会

写 真 図 版



和田山中和田遺跡 調査前遠景（西→）



和田山中和田遺跡 遺構検出状況（北東→）



試掘トレンチ 土坑状況（南→）



As-B下層跡 完掘状況（南東→）



SD-1 完掘状況（南東→）



SD-1 セクション（南東→）



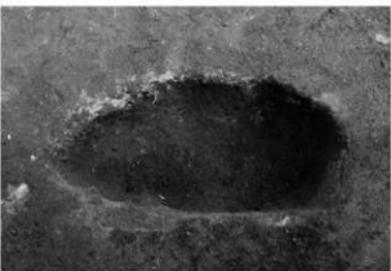
SD-2 完掘状況（南東→）



SD-2 セクション（南東→）



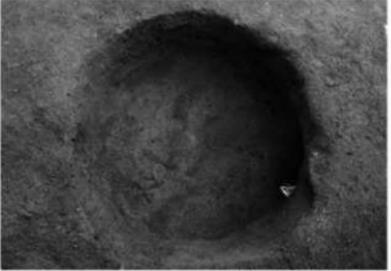
SK-1 セクション（南東→）



SK-1 完掘状況（南東→）



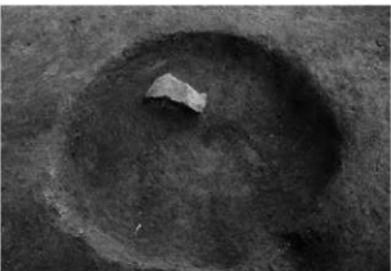
SK-2 セクション（東→）



SK-2 完掘状況（南東→）



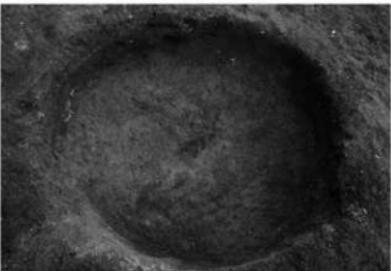
SK-3 セクション（東→）



SK-3 完掘状況（南→）



SK-4 セクション（東→）



SK-4 完掘状況（南西→）



SI-1 床面検出状況 (西→)



SI-1 床面検出状況 (東→)



SI-1 窓検出状況 (西→)



SI-1 窓完掘状況 (西→)



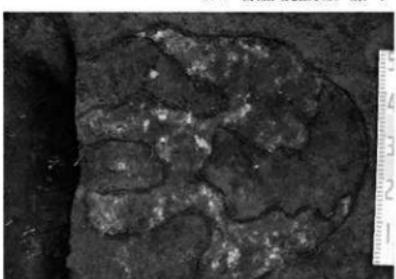
SI-1 窓振り方検出状況 (西→)



SI-1 貯藏穴完掘状況 (東→)



SI-1 床下土坑検出状況 (東→)



SI-1 床下土坑内粘土検出状況 (南→)



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13

報告書抄録

ふりがな	わだやまなかわだいせき						
書名	和田山中和田遺跡						
副書名	集会所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第489集						
著者名	山本 ジェームズ・飯塚 誠						
編集機関	高崎市教育委員会						
所在地	群馬県高崎市高松町35番地1						
発行年月日	令和5年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
和田山中和田遺跡	群馬県高崎市箕郷町和田山 字中和田106・107番	102024	836	36° 22' 56"	138° 57' 10"	2022.01.06 ～ 2022.01.27	131.5m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
和田山中和田遺跡	集落	平安時代	堅穴建物、土坑、ピット	円筒埴輪、朝顔形埴輪、繩文土器、 绳文時代耳栓、黒曜石削片			
備考							

高崎市文化財調査報告書 第489集

和田山中和田遺跡

- 集会所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

印刷・発行日 令和5年3月31日
 編集・発行 高崎市教育委員会
 群馬県高崎市高松町35番地1

印刷 上武印刷株式会社